

東 書 藝

平成 31 年 4 月

<http://www.toshogei.jp/>

第六十六回公募 東海書道藝術院展 開幕

会期：四月十六日 ～ 二十一日 会場：愛知県美術館ギャラリー
会期：四月二十三日 ～ 二十八日 会場：名古屋市民ギャラリー栄

第六十六回展は昨年同様、二期に亘り二会場での開催。会員の力を結集してここに東書藝の『現在』を示した。平成から新しい時代へとつなぐ意欲的な展覧である。



会 長 風 岡 五 城

春風の吹き渡る好季節、待ちに待った第六十六回東海書道藝術院展の開幕を迎えることが出来、大変嬉しく思っています。東書藝の各組織一丸となつて本展開催にご尽力いただいたお陰であります。この場を借りて心から感謝を申し上げます。

平成最後の、そして新元号元年の開催となる本展が記憶に残る展覧となることを願いつつ、どんな作品に出合えるのか楽しみにしているところです。

今展の中日新聞社紙上の全面広告では、タイトル文字を

「神飛」としました。唐の孫過庭の『書譜』の中の「翰逸神飛」からとった言葉です。何のこだわりもなく筆が自在に動き、精神が躍動する状態のことです。本会のスローガンである「自由かつ大胆」の精神にも通じる言葉です。

昨年十一月、本会名誉会長豆子甲水之先生がお亡くなりになりました。偉大な指導者であられた先生を亡くしたことは私たちにとって大きな悲しみですが、その悲しみを乗り越えて更に前進していくことが、先生のご遺

志にも叶うことだと思います。会員の皆様におかれましては一層のご理解、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

大賞に加藤真風氏、準大賞には橋爪玉雪氏が決定

第六十六回展 審査会

第六十六回展の審査は会友・公募の部が三月六日、会員・準会員の部が翌七日と、二日間に亘り名古屋市東区東桜会館で行われた。審査部を中心に各部が連携を取り合いながら作業はスムーズに進んでいく。審査員の先生方は計二十名。毎回配点の結果が展覧会場で公表される公正なものである。そして七日午後、大賞・準大賞の受賞者が決定となった。

第六十六回東書藝展
各部受賞者名

会員の部

佐々木治子 【東教委賞】
金谷 典子 清水 玲翠 岩田 春光
山口志満子 川口志満子
岩田 春光 古田 良江
佐藤 麗光 堀木 蓮珠
神田 遊美 井上 清麗
前田知比呂 林 澄子
遊美 奥村 知翠 杉原 照楓
遊美 大橋 栄美 松枝みどり

【大賞】

加藤 真風

浅野 春翠

岩井 玲翠

奥村 知翠

鈴木 萌園

松枝みどり

森本 紗綺

春日井康弘

篠田 邦子

【準大賞】

犬飼 美華

【中日賞】

鈴木希代美

大橋 栄美

【推薦】

【秀作】

野呂 妙香

【秀作】

片岡 真咲

【知事賞】

鳥井 春翠

安井 游虹

伊藤 芙箭

山田恵里伽

伊藤 露舟

山田 春麗

鈴木 啓心

田島 彩月

柴田 勝代

【東書藝賞】

岡部 緑園

園田三輪子

小川 胡蝶

古田 美川

蒲野 綾扇

早坂 幽蘭

水貝 光華

大島 正

平松 杏梨

【東書藝賞】

伊神 暁風

鈴木 久江

岡 紫葉

【市教委賞】

樋口 春嶺

伊藤 秀

福岡 芽生

松尾 湖舟

清水 翡翠

【東書藝賞】

杉野原光華

【推薦】

岡 雪華

山本 楓子

伊藤 小庭

桜井 春花

平野紗稚江

安藤由里子

安藤 清舟・久野 北崖

【中日賞】

岩崎 彩加

吉岡 松龍

辻 雪華

山本 楓子

石黒 井泉

山田なつ湖

安藤由里子

風岡 五城

（敬称略）

【東書藝賞】

奥田 愛子

増田 孝志

吉岡 松龍

大竹 直人

伊藤 幸園

小澤 紫泉

藤田 歩美

安藤 清舟・久野 北崖

西尾 邑城・松浦 白碩

【東書藝賞】

富永 壺洞

【特選】

寺園 朝霞

永井 恵草

山口 直子

小川 志希

藤田 歩美

伊藤 春魁・谷口 竹城

伊奈 咏玉・今枝 大軒

【推薦】

鈴木 素風

寺園 朝霞

安田 加奈

大杉 花芳

三島 晃

井浪広太郎

安藤 聡美

伊藤 春魁・谷口 竹城

伊藤 春魁・谷口 竹城

【特選】

高橋 雅

小林 恭子

今田 春恵

大杉 花芳

三島 晃

井浪広太郎

安藤 聡美

伊藤 春魁・谷口 竹城

伊藤 春魁・谷口 竹城

【特選】

加藤 青苔

今枝祐香里

池淵 熙道

江木 皐月

片岡 唯健

木村 昌次

近藤 北明

水谷 紅楓・本瀬 芝青

水谷 紅楓・本瀬 芝青

【市長賞】

越山 陶軒

大里 紅舟

越山 陶軒

坂野 圭香

八木 信江

今田 優翠

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

【市長賞】

遠山 穂光

大里 紅舟

大里 紅舟

堀野 太崖

暮石 知子

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

【市長賞】

小原 緑水

小原 緑水

小原 緑水

竹井 寶山

神谷 洋子

丹賀 月桃

木村 昌次

木村 大澤・荒川 青曠

木村 大澤・荒川 青曠

【市長賞】

伊藤 緑香

遠山 穂光

遠山 穂光

堀野 太崖

暮石 知子

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

【市長賞】

伊藤 緑香

遠山 穂光

遠山 穂光

堀野 太崖

暮石 知子

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

【市長賞】

伊藤 緑香

遠山 穂光

遠山 穂光

堀野 太崖

暮石 知子

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

【市長賞】

伊藤 緑香

遠山 穂光

遠山 穂光

堀野 太崖

暮石 知子

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

【市長賞】

伊藤 緑香

遠山 穂光

遠山 穂光

堀野 太崖

暮石 知子

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤

阿久津清孤



会場で審査する先生方

審査委員
風岡 五城
会員の部
安藤 清舟・久野 北崖
西尾 邑城・松浦 白碩
伊藤 春魁・谷口 竹城
会友・公募担当
水谷 紅楓・本瀬 芝青
木村 大澤・荒川 青曠
井浪 幸潭・岡本 恵園
梶田 稲州・老川 揺舟
河野 春園・近藤 春雪

第35回 花墨会展

平成三十年
十二月八日〜九日

本会常任理事・松岡麗泉先生主宰、35周年記念花墨会展を三重郡孤野町図書館に訪ねた。竹内秀峰氏の米寿展を併催。Tシャツに好きな文字を書こう！の実演もあって盛会だった。

第35回 花墨会展を終えて

松岡麗泉

偉大なる恩師の急逝から一ヶ月、深い悲しみの中の開催。唯一の慰めは、併催・竹内秀峰の米寿展とTシャツに字を書くイベントで、いつもの二倍もの来場者を得た事だった。

第一回展は四十才の時、実母の他界（末期癌）で涙も洩れ



てしまうほど泣いていた日々から、漸く立ち直り開催した。思えば幼稚園の教室に始まり、中学校の教室↓シヨッピングセンターの催事場↓孤野町図書館（ギャラリー）と催



事室）と、場所を変えての紆余曲折ある道程であったが、大勢の皆様のご指導・ご協力のお蔭で続けて来られた。この紙面をお借りして深謝申し上げます。

臨書を途中で止めていた罰で、「今回家書作品がないですね」の言葉が胸にグサリときたり、「画期的ですね」「50回展までやってください」「書の道に邁進してください」との激励に涙したりと、一喜一憂の35回展であった。そして亡き豆子先生に一步でも近づく為に更に修煉せねばと肝に銘じた35回展でもあった。

豆子先生、今後も厳しいお言葉をかけてくださいませ。高い空から！

第15回 攻玉書会展

本会参事・羽根田菖風、常任理事・羽根田菖風両先生率いる攻玉書会親交会が、第15回攻玉書会展を豊田市民文化会館で開催。作品の錬度高く、学生部の充実にも強く心打たれた。

第15回 攻玉書会展を終えて

羽根田菖風

昨年十二月二十二、二十三日の両日、豊田市民文化会館に於て、三年に一度の社中展を開催しました。

平成三十一年度、豊田市はラグビーワールドカップの試合地となります。今回の書会展は作品制作のテーマとして、「ラグビー応援メッセージ」を子供達全員で書く・その作品のプレゼンを自分自身でする・来場して頂いた方々から応援メッセージを頂く：この三つを実現させたいという思いからスタートしました。



ラグビー



羽根田菖風、菖橋、水谷汀華先生

とはどんなスポーツ？関連語とは？参加国は？等々、幼稚園児から高校生までの子供達が「熱い想い」で書ける言葉や漢字をみんなで相談しました。半切四分の一のサイズに書き上げられた作品には、外国人の人々にも理解してもらおう為に英語表記のシールも付けました。統一テーマで取り組んだ今回の書展は、より一層会員同士の気持ちを一つにする事ができたと思います。小雨の降る中、ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。

'19 東書藝院人研修会報告

三月二十四日 東桜会館



富永奇昂先生

今年も参加者九十名限定となった院人研修会は、講話と所蔵作品鑑賞の二部構成で行われた。

久野北崖副会長・開会の言葉に続き、富永奇昂常任理事の講話「韓国展に参加して」が始まった。富永先生はまず一、生い立ち 二、学生時代 三、大学卒業 四、オルタナティブスペースの運営 五、ビデオ鑑賞の順に、軽妙なお話ぶりでスタートされた。

先生は富永奇洞先生の長男で一九六四年生れ。年の離れた二人の姉と仲良く育ち、男性より女性の中にいる方が安心すると笑うお人柄。名古屋芸術大学生時代に梅舒適、所同谷に師事。「版画との出会い、卒業後の常

勤中学講師時代やそれからの後の作品制作、企画展示会、ギャラリー運営などの活動は、社会や人との関わりや縁の広がりの中でできた——自分はそういうスタンスで芸術に取り組んでいくタイプと話された。

「現代美術では人より早く新技術や価値観の提示が必要で、歴史や現状を知る事が肝要」作家を選出・依頼し展覧会を開催する事は、自分の作品ともいえる」等、現代美術・ギャラリー運営



への考えを述べられた。また若き日に出演されたCBCテレビ番組の特集ビデオでは、書と他領域との垣根

を取り扱った先生の活動の広さを見る事ができた。

続いて先の韓国でのアートフェスティバルに参加された話に移る。「世界平和」の文字で書と版画を合体させた巨大作品を、開催地ヨスへ電車、飛行機でご自分で搬送している様子や、現地での展示、スタッフとの交流（とにかく食事がうまかったそう）などを、ビデオ画面を送りながら細かに説明された。式典の流れは日本とは随分違う部分もあるが、勉強や参考になる事がたくさんあったとのこと。色々な場面での国民性の違いが映し出されて分かり易く、楽しく拝見できた。国際交流で得られる広い視点や、書のみならず他の分野との融合も積極的に実践される先生の芸術観を知り、有難い機会となった。

休憩をはさんで院人・井分潭風、副理事長・伊藤春魁両先生の所蔵作品の鑑賞の部に移った。江戸時代初期から幕末・明治、昭和の数十点の条幅作品、また立派な硯を間近でじっくり見ることができた。一点一点への解説では、その見識と造詣の深さ



井分潭風先生

に感心。伊藤先生の「書に関する多くのものに興味を持ち、それをつなぎ合わせることで新境地が開かれると感じている」との言葉が印象に残った。

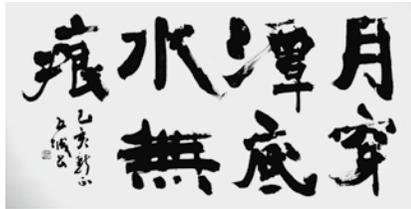
最後に安藤清舟副会長の閉会の言葉で終了となったが、たいへん充実した研修会であった。



伊藤春魁先生

第五十四回 新春東書藝代表作家展

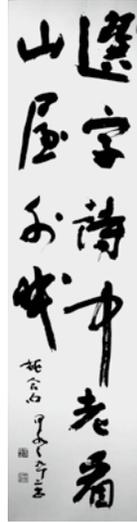
平成三十一年一月二十二日～二十七日、電気文化会館五階東ギャラリーにて開催。今展は大作の作品形式が変更され、昨年より十四点増、四十九点の出品となった。会を代表する幹部・役員作品群から、現在の東書藝の幹の姿の一端が見て取れる。故・豆子甲水之先生の御作が会場を引き締めていた。



風岡五城会長



安藤清舟副会長



故・豆子甲水之名譽会長



木村大澤理事長



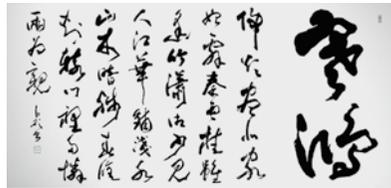
水谷紅楓常任参事



西尾邑城常任参事



松浦白碩常任参事



加山幽石先生

第10回 幽石書道会展

三月十四日～十九日
飯田創造館

— 豆子甲水之先生逝去の悲しみを乗り越えての記念展開催に、代表の本会参事・加山幽石先生は感慨深い様子だった。

噛みしめる第十回展の喜び

加山幽石

幽石書道会の出発は平成十四年。豆子甲水之先生を指導者として飯田にお迎えし、私が代表となつて昭和五十五年に開設した飯田書人会の活動が、最も盛んであつた頃のことである。公職を退いたのを機に先生が、「これからは自分の門弟を持って自立する道も考えなさい。」とおっしゃつたのだ。一気に二つの団体を率いることになって戸惑いはあつたが、今までの飯田書人会の活動が多くの人に知られる所となつていて、「あんな書を書きたい。基礎から教えて欲しい。」という友達や元職場仲間

今回は会員三十三名と私、助手をしてもらつている娘の榊田白蓮とで合計六十七点を、飯田創造館展示場で華やかに展覧することができた。勿論、元々豆子先生の書風にあこがれて集まつた仲間であることから、伝統を重んじたものとなつていて、一点一点が安心して観られるのも特徴である。

今年自分達の成長を実感し、喜び一入な会員の姿を感じた。また東書藝展を目指す会員も出るようになって、今後に楽しみなものも感じている。

19 今日の本展

平成三十年十二月二十六日(三十一年一月六日、愛知県美術館ギャラリーにて開催された。中部圏書芸作家協議会・中日新聞社主催。東書藝、以文会、玄書作院、書典社の四団体合わせて二八四点を展示。東書藝からは最多の一二四点。祝賀会は新年一月四日、メルパルク名古屋で催され盛会。



第34回景雲社「絆」書道展

本会常任理事・勝田晃拓先生代表の景雲社主催。二月十三日(二十日、磐田市立中央図書館にて開催。畳二畳サイズからミニ作品まで約七〇点と、「インテリアになる夢空間作品」

「Good Bye H e i s e i なつかしいで書」(代表の色紙作品)が展示され流石の充実度。



第9回有鄰書展

安藤餘香本会常任理事代表の有鄰会主催。三月十三日(十七日、岡崎市美術館にて開催され五十二点の力作を展示。高須芳碩喜寿展を併催し、自詠詩多数の三十三点がこちらも素晴らしかった。



今後の予定

- ◇第41回宏道書会选择展
会期 5月14日(火)～19日(日)
会場 栄サンシテイギャラリー
主催 宏道書会(山本晴城)
- ◇第43回公募 梓会書道展
会期 5月14日(火)～19日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリーJ室
主催 書道研究 梓会
(勝川香艸・伊藤春魁)
- ◇第61回新道書道会展
会期 5月31日(金)～6月2日(日)
会場 四日市市文化会館
主催 新道書道会(豆子紫甲)
- ◇第62回游心書展
会期 6月5日(水)～9日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリーJ室
主催 游心書道会(松浦白碩)
- ◇第26回無名會書展
会期 6月11日(火)～16日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄
主催 無名會(渡辺清香)
- ◇令和元年東書藝総会
期日 6月16日(日)
会場 中電ホール
- ◇「今日の本」代表作家展
会期 7月9日(火)～14日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄
主催 中部圏書芸作家協議会
中日新聞社
- ◇'19心象展
会期 7月9日(火)～15日(月)
- ◇第8回稻香印社展
会期 7月23日(火)～28日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄7F
主催 稻香印社(梶田稲州)
- ◇第35回清和会書展
会期 8月3日(土)・4日(日)
会場 瀬戸信用金庫本店ギャラリーひまわり
主催 清和会(西尾邑城)
- ◇第45回記念宏道書展
会期 8月20日(火)～25日(日)
会場 名古屋電気文化会館5F
主催 宏道書会(山本晴城)
- ◇第53回碩山書院一門展
会期 8月31日(土)・9月1日(日)
会場 蒲郡市民会館東ホール
主催 碩山書院(大竹翠葉)
全振興会
- ◇2019東書藝研修会
期日 9月8日(日)～9日(月)
会場 三重県(場所未定)

編集後記

▽平成から令和へ。東書藝も一致団結して新時代へ踏み出したい。66回展に入賞入選の皆様、おめでとうございました。

平成三十一年四月 第一三七号
発行 東海書道藝術院
編集 加藤松亭
堀江龍舟